



院長

鬼塚 俊明(おにつか としあき)

略歴

1991年 九州大学医学部卒、九州大学精神科神経科入局
 2000年 米国ハーバード大学医学部精神科研究員
 2004年 九州大学病院精神科神経科助教
 2008年 九州大学病院精神科神経科講師
 2015年 九州大学大学院医学研究院精神病態医学(精神科神経科)准教授
 2021年 九州大学大学院医学研究院神経画像解析学教授



診療科

- ・ 一般精神科
- ・ アルコール・薬物依存症
- ・ 専門外来
- ・ こころのリスク外来

**病床数
175床**

- ・ 精神科病棟 157床
- ・ 医療観察法 18床
- ・ 強度行動障害ユニット

病院理念 この病院で最も大切なひとは治療を受ける人である

榊原病院に赴任して

庶務班長 佐々木 真

この度、10月1日付で三重中央医療センターから榊原病院に赴任いたしました佐々木と申します。榊原病院は令和2年4月から令和4年3月まで在籍しておりましたので2年半ぶりに再度勤務させていただくこととなりました。前回在籍させていただいていた時は、病棟改修工事のまっただ中であり、新しい病棟に生まれ変わる様子を見ることができました。病棟改修による引っ越し作業を行ったり、またコロナウイルスが蔓延していた時期になりますので、何かと不慣れな思いをしたりと色々な体験をしたことを思い出します。

私が担当している業務は、榊原病院の管理課という部門になります。病院は医師・看護師・メディカルスタッフなど、さまざまな専門職が集まり医療チームとして活動しています。職員の人事・給与に関する業務や労務管理に関する業務を行う中で、これらの多種多様な人材すべてが高いモチベーションを持って働くことができる労働環境の構築に取り組んでいます。医療スタッフが全力で医療の提供に専念できるよう、确实・正確に給与や労務管理を行い、「いつも通り」を全力で支えることが、管理課の使命です。患者さんとは直接ふれ合うことが少ない部署ではありますが、職員が安心して業務に専念できる環境を整えることにより、間接的に患者さんにより良い医療を提供できるものと考えております。

「この病院で最も大切な人は治療を受ける人である」という病院理念のもと、職員全員が日々の業務を真剣に行っている病院であると思います。職員それぞれ職場や業務内容は違いますが、病気で苦難を抱える患者さんを支える専門家であるとともに、ケアされる人、ケアする人の信頼・相互関係で成り立つものと思います。人や地域にケアとして寄り添える、そんな病院を今後も目指して、日々努力していきたいと考えています。

今後ともよろしくお願いいたします。



電車・バス / 近鉄久居駅下車 三交バス (車庫前行き) 約30分
 自動車 / 久居インターより約20分
 マイクロバス / 久居駅より直通バス(約25分)



地域医療連携室だより

〈医療福祉相談のご案内〉

経済的な心配、福祉サービスの利用、退院後の生活など病気によって生じた生活上の困り事について、精神保健福祉士がご相談に応じます。相談をご希望の方は、主治医、看護師及び医事受付まで申し出てください。

ゆうはあと訪問看護ステーション

令和元年6月に「ゆうはあと訪問看護ステーション」を開業しました。利用者様が地域で安心して暮らしていただけることを目標として訪問看護を提供しています。症状の観察や相談・お薬の管理・通院継続の支援・対人関係・コミュニケーションへの支援など、心身の回復のお手伝いを目的として行っています。

私たち「ゆうはあと」は、あなたの療養、そして暮らしを支えます。少しでも豊かに、少しずつ豊かになりますようにここで支えます。



治療抵抗性精神疾患への医療

〈クロザピンの治療状況〉

治療抵抗性統合失調症に対して、平成26年10月に1例目の投与を開始し、令和6年11月までに全症例は167例となりました。新規導入は10・11月は3例でした。順次投与を開始する予定です。クロザピン通院専門外来も開設しております。

認知症医療、こころのリスク外来

〈認知症医療〉

認知症の患者様は高齢であることから、様々な合併症をお持ちの方が多くおられます。また、アルコール問題の後に認知機能が低下することや、さらに身体疾患に併発した認知機能の障害は、若年の方にも見られます。

したがって、現在は80歳以上の超高齢の方と50～60代の若年の方に認知症が発症する傾向が多く見られます。身体的な問題については、法人内病院である三重中央医療センターと連携を図りながら、幻覚や妄想、不穏など認知症の周辺症状（BPSD）に対応しています。一般病院や介護施設において、BPSDの問題でお困りの場合はご相談ください。

〈こころのリスク外来〉

思春期・青年期はこころのリスク状態が高まり、さまざまなこころの病気を発症しやすいと言われています。当外来はこころのリスク状態を早期に発見・治療していくための専門外来ですので、お気軽にご相談ください。



デイ・ケア案内



デイケアは、南2階で月、火、水、金の9:30から15:30まで活動しています。皆さまそれぞれの目標に合わせて、生活リズムを整えたり、仕事や作業所に通う体力を獲得したり、リフレッシュしたりと、活動に取り組んでおられます。

デイケアを利用される方は、1日あたり10人～20人です。ホールで過ごすことも、静かな個室で過ごすこともできます。

今は12月の雰囲気を楽しむプログラムが増えています。クリスマスリースを作ったり、お料理やデザート作りを行ったりしています。食べたらしっかりと運動もできるよう、毎日ヨガやスポーツのプログラムを行っています。デイケアを利用いただくみなさまと、心身ともに健康であることを目指しています。



クリスマスリースを作りました。病院内でみつけたつるや木の葉を使っています。



12月の調理はやっぱりキンです。ポタージュスープもおいしくできました。

ホームページに「デイケアでの感染予防プログラムの学びと実践の取り組みについて」を掲載しています。



デイケア案内、プログラム表については、こちらをご覧ください。



栄養コラム

年末年始の過ごし方

年末年始はクリスマス、忘年会、お正月、新年会など様々な食事にまつわるイベントごとが続く時期です。なので、年明け早々に今年は何キロ太ったということが起こります。

そこで重要なのが、日頃からの体重測定です。こまめに毎日測定する方もいれば1週間に1回の方もいます。どんな頻度が正解かはその方の生活パターンがそれぞれ違うので、一概には言えません。ですが、じゃあどのくらいが適正と聞かれば2～3回程度です。もちろん、毎日測定するのがベストですが現実的に出来ない方が多数います。ですので、週に2～3回程度、もしくは週に1回の測定を心がけましょう。

ちなみにですが、増えた体重を元に戻すのは非常に大変です。体重測定が健康を保つ、一番簡単にできてわかりやすいバロメーターであるのは確かです。